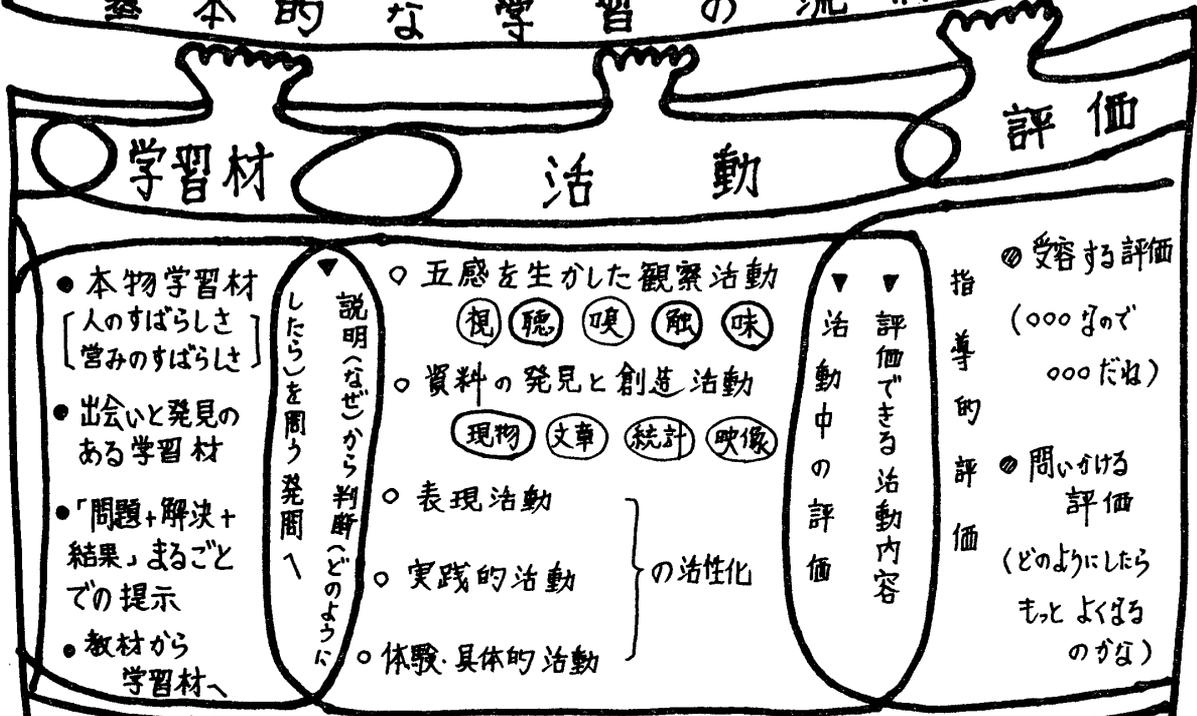


気づき	考 え	表現する	ふりか える
感じる	る	実践する	
基本的な学習の流れ (側面)			



出会いと感動のある授業創り

指導者

1994.8.30  
小原 上丸園  
富村 松田



## 2 社 会 科

—共感的に問いかけ社会へ働きかける子どもを育成する社会科学習—

富 村 誠・松 田 芳 明

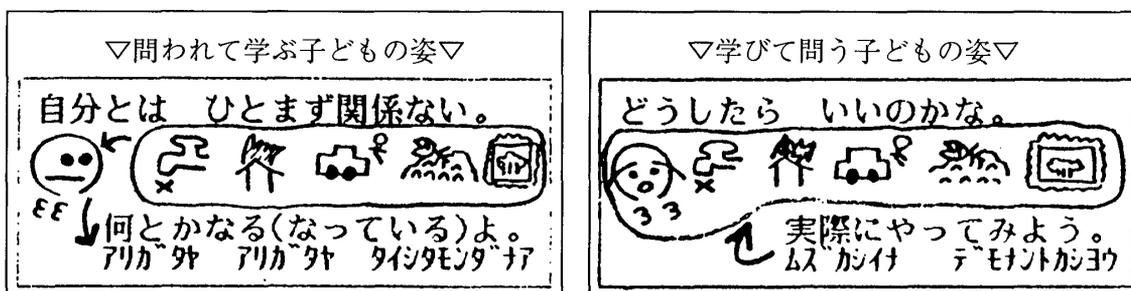
### 1 社会科学習で育む「豊かな感性」をもった子どもの姿

本校社会科部では、昨年度来、「問題を解決する（した）人間の営みへの共感」と「問題解決に見られる（見られた）人間の知恵に触れる」ことを、社会科学習づくりにあたって大切にしてきた<sup>1)</sup>。その成果として挙げられるのは、具体的な人間の営みとして「カキ養殖業者」「アイガモ農家」を取り上げることによって、未来のカキ養殖を予想・想像したり、米づくりを見直していくことの必要性に目を向けたりといった子どもの姿が見られるようになってきたことがある<sup>2)</sup>。『ほくなら、私なら、こう考える』という意思決定や、『ほく、私も、実際にやってみよう』という社会参加への力は、営みに共感し知恵に触れる豊かな感性を育む学習を基盤に培われていく。社会科学習が究極的にめざしている「公民的資質の基礎」のひとつとして、自分なりに社会へ働きかけていこうとする意思決定や社会参加への力を見据えた学習づくりが大切なのではなからうか。

#### (1) 社会的事象とのかかわり方の対象的な2タイプ

昨年度のポイントとした「問題を解決する（した）人間の営みへの共感」「問題解決に見られる（見られた）人間の知恵に触れる」にあわせて表現すれば、本年度のポイントは、「自分なりに問題を解決しようとする」子どもを育成することだと言い表すことができる。

社会科が学習対象とする社会的事象と子どもとのかかわり方に、対照的な2つのタイプがある。例えば、現在の事象（水資源の確保、火災・交通災害への対処）をもとにすると、第1には《何とかなる（なっている）》と構えるタイプ、第2には《何とかしなくては》と構えるタイプである。学習の導入として、同じく「断水した水のみ場」「交通事故の現場」を提示した場合であっても、第1は《大丈夫だ》→《どのようになっているか》と問いをすすめる、第2は《大丈夫か》→《どのようにしたらよいか》と問いをすすめるといった差異が生じることとなる。第1の学習の結果として得られるのは《現在の仕組みの理解》つまり知識であり、第2の学習の結果として得られるのは《現在の仕組みをふまえた共感的な理解》つまり知恵である。このような前者の理解は現状理解に留まる、生きて働きにくい静的な知識の集積に終始することになる。《なるほど、今の仕組みはこのようになっているのか。でも大丈夫か。》と、学びて問う理解をこそ求めている。



#### (2) 社会科学習で育みたい子どもの姿

社会的事象に見られる（見られた）問題を解決しようとする人間の営みに共感し、問題解決に見られる（見られた）人間の知恵に触れ、社会の一員として自覚をもって自分なりに社会へ働きかけていこうとする（意思決定・社会参加する、など）子ども。

## 2 豊かな感性を育む社会科学学習づくりにあたって

### (1) 学習材の開発

自分なりに問題を解決し社会へ働きかけていこうとする子どもを育むうえで大きなはたらきをしているものが学習材である。その場合の学習材は、教え・分からせるためのもの（教材）でなく、子どもの共感的な問いを引き出すためのものとして開発することが大切である。

学習材のもつ要件としては、次のようなことが考えられる。

- ① 子どもに身近な地域素材、日常素材を活用した学習材
  - ・自分なりの解決や働きかけが実際にできること（自ら観て、調べ、考え、試してみる）。
- ② 問題を解決する営みが含まれた学習材
  - ・具体的な人物、主張などが明らかであること。
  - ・よりよく生きようとする（した）人物の素晴らしさが発見できること。
- ③ 魅力的で新鮮な学習材<sup>3)</sup>
  - ・事象を追求していくうえで、ほどよい抵抗があること。
  - ・意外性や驚きなど心情のゆれを引き起こすこと。

### (2) 問題解決的な学習過程

学び方や解決の仕方、自分なりの見方や考え方といった問題解決能力を培ううえで、問題解決的な学習過程を基本に据えた学習活動を構想することが大切である。「めあてを持つ→めあてを追求する→振り返る」という基本的な学習過程に《気づく・感じる→考える→表現する→振り返る》ステップを位置づけることで、自分なりの解決や働きかけに生きる力が一層育まれていく。なお、このような過程およびステップを1単位時間で完結するように予め位置づけるのではなく、少なくとも1単元や小単元、日常の実践活動を含めたレベルで検討したい。

### (3) 体験的な学習活動の重視

働きかける学習活動として、実際にやってみる（実体験）活動やまねてやってみる（追体験）活動、人々との触れ合いのある活動<sup>4)</sup>など主体的にかかわる行動的な学習活動を一層重視する。

### (4) よさに気づき高め合う評価の実施

自分や友だちの学習のよさを自ら振り返る自己評価・相互評価と助言・励ましの場を設け、自己を高める評価力の育成を図っていく。

## 3 今後の課題

社会参加といった実践的な活動を構想するには、時数を重点的に配分した弾力的な年間指導計画を作成する必要がある。また、どの単元にどのような意思決定や社会参加をどの程度位置づけていくかについて検討することも欠かせない。さらに、社会参加といった課外に及ぶ活動について、どのように振り返らせていくか、実践を通して明らかにする必要がある。今後の課題としたい。

註

- 1) 研究紀要『豊かな感性を育む』本校刊、1994年、32頁。
- 2) 同上書、36頁および45頁。
- 3) 広島大学附属東雲小学校『めあて追求の授業』第一法規、1988年、58頁。
- 4) 文部省『新しい学力観に立つ社会科の学習指導の創造』東洋館出版社、1993年、34～36頁。

原爆のキノコ雲を図柄とした米国の記念切手の原案（APR共同）



Atomic bombs hasten war's end, August 1945